

「親子で学ぶ農林水産業見学体験ツアー in 相馬・新地」を開催しました。

小学生とその保護者を対象に、生産者の皆さんとの交流や収穫体験などを通して、相馬地方の農林水産物に対する安心を深めてもらうとともに、農林水産業の再開状況や取組状況を参加された親子に理解してもらうことを目的に、親子で楽しみながら学べる日帰りバスツアーを令和3年2月28日に実施しました。今回は、新型コロナウイルス対策として例年の約半数の定員で実施し、小学生と保護者8組20名が参加されました。

初めに、福島県水産資源研究所において、栽培漁業の取組や研究所の役割について説明を受け、水産物の放射性物質検査の設備のほか、ホシガレイ、アユ、ヒラメの生産技術の研究施設を見学しました。ホシガレイの大きさの違いが分かる年齢別に分かれた水槽や飼育に必要なプランクトンを培養する水槽など、研究機関ならではの設備に参加者は興味深そうに見学していました。

次に、「鹿狼の湯そば工房」において、店主から新地町でのそば栽培の話聞いた後、町内で生産されたそば粉を使用してそば打ち体験を行いました。打ったそばは、昼食として提供され、太いものから細いものまで形は様々でしたが、自分で打ったそばの体験を振り返りながら大事に食していました。

午後には、相馬市松川浦大洲地区を訪れ、海岸防災林の役割や復旧状況を見学しました。その後、同市の和田観光苺組合に移動し、イチゴのハウス栽培の取組などを学んだ後、イチゴの収穫体験を行いました。参加者は旬のイチゴを前に、大きさや色などを吟味しながら収穫を楽しんでいました。

最後に、参加者からは「貴重な話も聞けたので良かった。また、参加したいです。」「放射性物質について子供が食べることを考えると、どうしても考えてしまうところがある。ただ、県内産のものもとても美味しいので今後も「安全だ」という情報をどんどん流してほしい。」などの意見がありました。



県水産資源研究所の説明



親子そば打ち体験



イチゴの収穫体験